

## [さとうきび]

### 1 作付の概要

2012/2013年さとうきび年期の鹿児島県の収穫面積は10,000ha、前年に比べて300ha減少した。鹿児島県での作型構成は、夏植えが12%、春植えが23%、株出しが66%となっている。特に夏植えの面積が減っている。品種構成では、NiF8の収穫面積が51%を占めている。この比率は減少傾向にあり、Ni22が21%、Ni23が16%までシェアを拡大している。

種子島では、株出しが69%あり、品種はNiF8が80%、Ni22が18%となっている。奄美大島では、株出しが62%あり、Ni22が44%、Ni17が25%となっている。喜界島では、株出しが57%あり、NiF8が57%、Ni23が18%、Ni22が10%となっている。徳之島では、株出しが68%あり、NiF8が46%、Ni23が24%、Ni22が17%となっている。沖永良部島では、株出しが58%あり、Ni22が46%、NiF8が40%となっている。与論島では、株出しが72%あり、Ni23が77%となっている。

沖縄県は13,000ha、前年より700ha増加した。沖縄県での作型構成は、夏植えが42%、春植えが14%、株出しが44%となっている。特に株出し面積の増加が、収穫面積の増加をもたらした。その面積は430ha増えている。品種構成では、Ni15が最も多く、次にNi21、NiF8となっている。

沖縄地域（周辺離島も含む）では、株出しが66%あり、品種はNiF8、Ni21がそれぞれ17%であり、Ni15やNi22が増加傾向にある。宮古地域は株出しが19%と急増している。Ni15が19%であり、近年Ni22が増えている。八重山地域は株出しが27%あり、Ni15が45%、次にNiF8が13%であり、Ni22が増加している。

### 2 作柄の状況

鹿児島県では、種子島地域における春先の低温による生育の遅れや、奄美地域における8月下旬から9月下旬に襲来した3つの台風による潮風害や倒伏により2年連続の不作となり、生産量・単収ともに過去最低となった。10a当たり収量は4.3t/10aである。また糖度についても、13.7度と低い結果となった。

沖縄県では、3月から7月は平年を上回る気温であったが、8月以降は平年を下回る傾向が見られた。宮古・八重山地域では6月23日の梅雨明け以降、7月中旬まで降雨がなく干ばつ傾向にあった。8月は台風がもたらした降雨によって、本島地域、南大東、久米島で平年を上回る降雨量となった。

さとうきびに被害をもたらした台風は9個と例年になく多く、潮害や葉片裂傷などによって登熟遅延や品質の低下や低収をもたらした。その結果、10a当たり収量は、5.2t/10aと低い水準となった。また糖度は14.3度であった。

2012/2013年期の鹿児島、沖縄両県のサトウキビ生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留り** (%)
鹿児島	12/13	8,851	9,997	4,320	431,874	13.66	52,194	12.09
	対前年比	97.6	96.8	97.3	94.2	103.4	100.5	106.7
沖縄	12/13	16,443	12,996	5,197	675,346	14.3	83,269	12.33
	対前年比	98.7	105.8	118.1	124.8	100.7	131.0	105.0
両県合計	12/13	25,294	22,993	9,517	1,107,220	28.0	135,463	24.4
	対前年比	98.3	101.7	107.6	110.8	102.0	117.3	105.8

\*: 含蜜糖を含む生産量

\*\* : 分蜜糖のみの歩留り

平成24/25年期 さとうきび及びび甘しや糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。